

二宮 淳 議員



一問一答方式

- ①市長の政治姿勢
- ②長浜高校学生寮の整備
- ③災害時の備蓄品
- ④長浜第二次開発事業計画
- ⑤伊方原発
- ⑥子ども医療費の無料化

市長の政治姿勢について

問 二宮市長には、長年の行政経験を踏まえつつ、本市のかじ取りをしていただけるものと期待をしているが、今までどおりでは未来はないと思う。起死回生となるような、例えば水族館、海の駅構想について、取り組みをお考えはないのか。

答

これまでの施策の中には、課題も多く目標を達成できなかったものもありますが、チャレンジ精神がなければ新しい施策を創出できず、未来への道を切り開けないものと思っています。市民の皆様との対話の中で、新しい政策を協働してつくり、市民の皆様のチャレンジを後押しすることが、まちの活力を高め、定住できる環境を整えていくものと考えています。

長浜地域において、水族館整備に対する期待が高まっていることも承知しています。水族館や海の駅構想も、地域の皆様とともに、長浜地域全体のまちづくりのあり方を考え、将来のビジョンをつくっていく中で、どのようにチャレンジできるか、鋭意検討していきたいと考えています。

長浜高校学生寮の整備について

問

長浜高校は、新たな取り組みとして、平成31年度入学者選抜で全国募集を実施することとなっている。全国から受け入れるには、住居や食事の支援や広報活動など、クリアすべき課題も多いが、基盤整備と

して、学生寮は必須であると考えている。地元自治体として、学生寮の整備をしてお考えはないのか。

答

長浜高校は、生徒118名のうち約7割がJRやバスでの通学で、通学手段は十分確保されており、市内中心部の賃貸住宅から通学するという方法も可能であると考えています。

また、西村兵太郎先生・絆の会では、遠隔地から長浜高校へ入学される生徒のための下宿先募集の取り組みを進めており、会員相互の協力体制が確立されています。

こうした状況ですので、賃貸住宅や下宿を活用していただくことが現実的で、多額の財政負担を伴う学生寮の整備は困難であると考えています。

引き続き、魅力ある地域づくりや活性化に向けた地元の取り組みを支援するとともに、長浜高校とともに移住定住の促進に合わせた情報発信などを進めていきたいと考えています。

災害時の備蓄品について

問

各避難所での備蓄品の水や食料は、その数量が非常に限られて

いると言わざるを得ない。一般的に備蓄品は、災害発生から3日分を用意することが望ましいと言われているが、これまでの配布量では1日から2日くらいしかもたず、非常に少ないと思われる。もう少し増やす考えはないのか。

答

食料や飲料水の備蓄については、国の防災基本計画において、住民に対し最低3日分、推奨7日分を備蓄するよう普及啓発を図ることとされています。

本市の食糧備蓄整備の基本的な考え方は、防災の基本である自らの身の安全は自ら守るということ、そして市民の皆様が、まず最低3日分、推奨7日分の食料や飲料水の備蓄を行っていただくことを前提としています。それを補完するものとして、災害時に自らの備蓄による対応が困難な方や、旅行者などへの初期対応に必要な量を備蓄することとしています。

自分自身の食料や飲料水の備蓄は、自助の中でも、誰もができる災害対策の1つです。その重要性については、引き続き啓発等に努めていきたいと考えています。